令和5(2023)年度　住まいとコミュニティづくり活動助成　活動中間報告

団体名

かもがわデルタフェスティバル実行委員会

活動のテーマ

市営住宅団地の再生に伴う跡地活用の検討と、地域のまちづくりを担う組織づくり

9 月までに達成できた事項(箇条書き)

・第 10 回未来のまちづくりミーティングの開催（4 月 22 日）
「意見書 ver1」を住民に配布・公開し、それについてさらに意見を募った。それを盛り込んだ「意見書 ver2」を作成した。
・「意見書 ver2」を養正市営住宅団地全戸に配布するとともに、当地区に所在する京都市左京西部いきいき市民活動センターに配架。インターネットでも全ページ見ることができるよう公開した。（https://note.com/kamo_delfes/）
・養正市営住宅団地建て替えに伴う、跡地活用に関する「意見書 ver2」を京都市へ提出した。（５月２９日）
・「意見書 ver2」に対する京都市からの回答を受け取り（８月３１日）インターネットで内容を公開した。
・かもがわデルタフェスティバルについての住民説明会を開催した。(8 月 5 日)
・かもがわデルタフェスティバルの開催（９月９日～１６日）
・困窮家庭向けに米の配布と困りごと相談（＊助成対象外。民生児童委員会と連携／養正学区まちづくり協議会（仮称）準備会プレ事業の位置付け／９月７日、８日実施）
・6 回の実行委員会を開催した。(4 月 8 日、5 月 13 日、6 月 10 日、7 月 8 日、8 月 12 日、9 月 9 日)

今後の活動予定と令和 6 年 3 月末時点の達成予定事項

・第 11 回未来のまちづくりミーティング　2023 年 12 月開催予定。地域の意見を集約しまちづくりを担う組織について話し合いを行う。→「養正まちづくり協議会（仮称)」に向けた合意。
・第 12 回未来のまちづくりミーティング　2024 年 3 月開催予定。京都市からの跡地計画案の提案の遅れに伴い、跡地活用案についての検討を行う。

上記ミーティングの報告レポートを作成し、配布するとともにインターネットで公開する。

＜3 月時点での達成予定事項＞
① 京都市に「意見書」を提出（達成)。市営住宅団地跡地活用に対して住民意見を届ける。京都市等と共に跡地についての協議を開始する。
② かもがわデルタフェスティバルを開催し、昨年（来場者 800 名＊達成）並みの来場者を獲得し、地域内外の交流を促進する。
③ 「養正まちづくり協議会（仮称)」の設立に目処が立つ。

団体名　かもがわデルタフェスティバル実行委員会

活動のテーマ　市営住宅団地の再生に伴う跡地活用の検討と、地域のまちづくりを担う組織づくり

＜活動を開始した理由・背景＞

養正地区には、同和対策事業の一環で建てられた中・高層の改良住宅が立ち並ぶ団地が存在します。その住宅群が段階的に取り壊され、およそ 10 年後には新たな街として生まれ変わる予定です。団地内には高齢化の問題、貧困の問題、子供やお年寄りの孤立の問題など多数の複合的な課題があります。

　また、この団地の周辺部には外国籍市民も多く暮らしています。近年はその数が増えるとともに、出身地域も多様化し、孤立化の問題など、新たな社会課題を抱えています。

　当地域の課題の根源は住民同士の『分断』にあります。再生計画が進む団地内では過去の歴史から自治組織が消滅しており、複数の人権運動団体がそれに代わって活動していますが、団体の対立が長く続き対話は育まれてきませんでした。近年は人権団体の高齢化や弱体化により、地域課題への対応や地域活動そのものがほとんど機能しない状況となっています。また、団地内と団地周辺住民との断絶も課題です。京都では学区単位で自治会を組むことが一般的ですが、学区を同じにする団地内住民と周囲の住民との対話も育まれて来ず、自治会における各種団体が団地内ではほとんど活動していない状況が続いています。

　また、近年増えている外国籍市民と以前から暮らす住民との接点がないことも問題になっています。特に防災面ではそうした方へのケアが全く行き届いていない状況です。また海外にルーツを持ち日本語がそれほど堪能ではない親を持つ子供の教育の問題や文化の違いなどによる近隣とのトラブルの問題なども顕在化しています。

　当団体の前身は、『ようせい夏まつり実行委員会』です。これは地域の公共施設『左京西部いきいき市民活動センター』が呼びかけて、地域で 20 年ほど前まで行われていたお祭りを復活させようと、2017 年から 3 年間実施ししたお祭りの運営母体です。このお祭りは地域に喜ばれ、また多様な団体に参画していただいたことで、対話のきっかけが生まれました。

（写真：盆踊りで賑わう公園の様子／2019 年）

　コロナによる中断を経て、地域のお祭りを持続的に実施できるよう規約などを整え、運営母体を強化したのが『かもがわデルタフェスティバル実行委員会』です。地域のお祭りを運営するのみならず、祭りを通じて対話を育み、地域のまちづくりに貢献することを目的としています。ちなみに祭りのテーマは『多文化共生』です。

そんな折、団地の老朽化に伴い京都市による団地再生計画が始まりました。しかし、住民意見を集約する団体が存在しないことから、各種の住民団体を構成員に持つ当団体が呼びかけて、住民意見を集約する会を始めていくことになりました。主に団地再生に伴って生まれる跡地活用について話し合いをし、合わせて地域のまちづくりについて語り合う会で

す。地域課題は多く存在し、課題に対応しようとする試みも行われていますが、連携や対話がないまま有志が個別で活動している現状です。まずは対話を育むことで、連携や協力を生み、地域の活力を復活させたいと考えています。

＜9 月までの活動の進捗状況＞

昨年の未来のまちづくりミーティングの結果をまとめた「意見書 ver1」について意見を伺う『第 10 回未来のまちづくりミーティング』を 4 月 22 日に開催。そこで出された意見を盛り込んだ「意見書 ver2」を団地住民全戸に配布するとともに、京都市に提出しました。その回答は 8 月末に京都市から寄せられ、その内容を含めネットで公開しました。

京都市へ意見書提出、

地域住民へ意見書ver2 共有

地域内外交流促進／かもがわデルタフェスティバル2023開催の様子

9 月 9 日から 16 日にかけて「かもがわデルタフェスティバル」を開催しました。9 月 16 日に開催されたメインイベントである多文化まつりはが多くの外国人を含め地域内外から 1000 名ほどの来場者が訪れ大変賑いました。

当助成金の対象外ではありますが、当実行委員会に所属する若者が中心となって、9 月から生活支援としてお米の配布と困りごと相談を開始しました。まちづくりを担う新たな組織の立ち上げにつながることが期待されます。

まちづくりに向けた、次世代による自主的な地域貢献活動の動き／お米の配布と困りごと相談（助成対象外）